

経営比較分析表

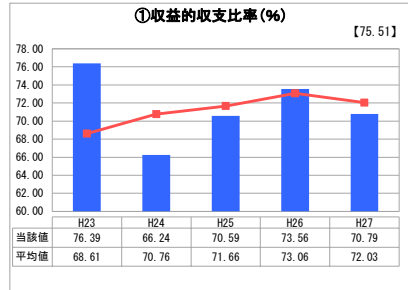
福岡県 新宮町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.90	5,450

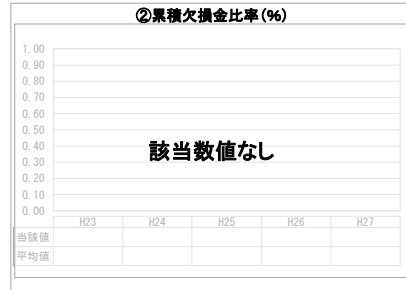
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
31,139	18.93	1,644.96
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
283	1.22	231.97

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



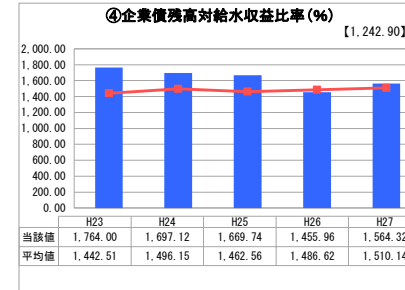
「単年度の収支」



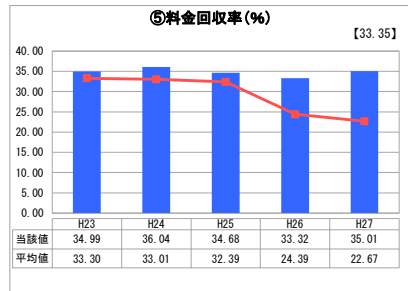
「累積欠損」



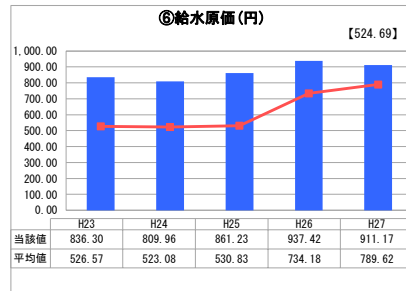
「支払能力」



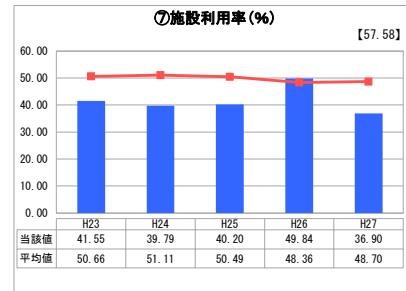
「債務残高」



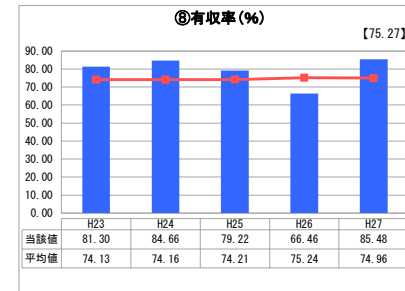
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

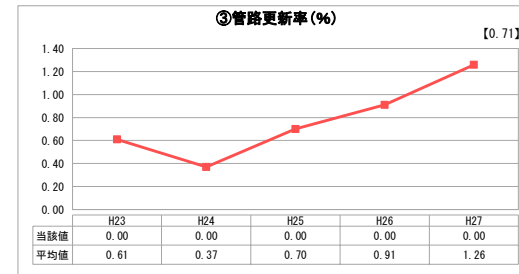
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本事業は、離島の相島地区の簡易水道事業で、上水道事業に比べ約1.4倍の料金体系で賄っていますが、料金回収率は35%前後で、一般会計からの繰入金に頼らざるを得ない状況となっております。平成26年度は、配水管の経年劣化のため漏水が頻発していましたが、同年漏水修理を行ったため有収率が上がりました。料金回収率の増加も漏水修理を行ったことによるものです。これからさらに給水人口は減少し、一般会計繰入金への依存度は高くなっていくことが予想されます。

2. 老朽化の状況について

平成11年から平成13年度の基幹改良事業により、約4割の配水管更新を実施しておりますが、更新未実施の配水管は、創設時に（昭和53年）布設されたもので、平成28年度から3年間で配水管の更新を行う予定です。施設についても耐用年数等考慮しながら更新する必要があります。

全体総括

人口減少のため使用料金収入は減少していくことが予想されますが、上水道事業に比べ割高な料金体系となっていることで、使用料金の値上げが行いにくい状況となっております。今後発生してくる各施設の更新費用とともに一般会計への負担はますます増加していくものと思われます。更新時には、ダウンサイジングを念頭に実施していく必要があります。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。